

だ み よ く り に

No.743 令和5年11月1日発行

「言葉にならない心を見つめて」



育児に家事、仕事、介護、勉強……毎日お疲れ様です。それに加えて、ここ数週間で一気に寒くなり、季節の変化についていくのが大変でしたが、体調は変わりありませんか。今月も皆さんが健康で、心地よくいられますように。

皆さんは親に対して「今やるところなのに」と思ったり言い返したことはありますか。その感情は何歳くらいからあることだと思いますか。わたしが実際に見聞きした限り、一番低年齢で5歳です。先日聞いた他園の先生の話が印象的でしたので、少し話します。

5歳児が数人でブロック遊びをしながら家族の話をしていたところ、あるおさまがこう話していたそうです。「いまやるところなのに、ままね、てをあらってっていつてくるの。あと、ままね、いっしょにはみがきしてくれてうれしいんだけど、くちにいれてるだけだっというの。」と。まるで、大人が喫茶店で気心知れた友人に「わたしの話を聴いてー」と言わんばかりに話している様子は、これぞまさに子ども社会だったそうです。子どもにも言い分や思いがあり、立派な一人の人であることがよくわかります。

このように活字で見ると、大人の気持ちと子どもの気持ちのズレがよくわかります。惜しいですね。もしも子どもの様子をもう少し待っていたら……。もしもその一言がなかったら……。 「言われなくても自分でできた」(自己効力感、達成感、自信)になりますし、「ままとはみがきできてうれしいな」(幸福感、安心感、充足感)だったでしょう。子どもの気持ちが目に見えたら、どんなに助かるでしょう。

私も先日反省しました。「さあ進めましょう」と製作中の子どもたちに促す言葉を掛けたのですが、「ちがうちがう、ていねいにやってるの。」と返ってきました。大人の都合や決めつけによる子どもとのズレが生じないように、広げられないように、子どもを「見る」ことが大切ですね。そこから次のステップです。子どもからまたまた学ばせて

もらいました。日々精進。

さて、このおさまとのやりとりには続きがあるそうですが、何と言ったと思いますか。

「せんせい、だっこしてくれる？」意外な展開です。5歳児、まだまだ甘えたくて、甘えたことで生きるエネルギーになる年頃。一見自立してきたと見える5歳児でも、甘えたいのです。ほんの数十秒程抱きしめた後、「もういい」と遊びを再開したようです。心が満たされたのでしょう。今月もご家庭と一緒に、子どもたちをよく見て、心の声を感じ、受けとめて満たしていこうと思います。

「しつけの本質は着物のしつけという意味によく表れていると思います。着物を縫うとき、形を整えるために仮に縫い付けておくのがしつけですが、大切なことは、いよいよ着物が縫いあがると、しつけの糸ははずす、ということです。しつけの糸はもはや不要であり、それが残っているとおかしいことになります。しつけというと、「つける」営みに注目しがちですが、この「はずす」ことが子どもの発達にとって重要な意味をもつのです。」(発達心理学者の岡本夏木先生の言葉)

編集後記ならぬ行事後記□先日は運動会にお越しいたいただき、ありがとうございます。いかがでしたか□本番で初めての会場、ましてや大勢の観覧の中、一人ひとりよくやったと思います□みくに学園では、本番前日は練習を行いません。エネルギーを貯めて、「やりたい」を最大限にして本番にのぞめるようにするためです□本番に向けて練習を積み重ねた子どもたち。当日欠席されたおさまもよく頑張っていました。引き続き一日一日を大切に積み重ねていきます□乳児クラスの方々も参加してくださいました。おさまの「たのしかった」という今回の経験が数年後に花咲くことと思います。数年後に「〇年前は……」と懐かしむ話をするを楽しみにしています。